平成 26 年９月 経営協議会議事録

Ⅰ．日　時　　平成２６年９月１１日（木）　１４時００分～１６時３０分

Ⅱ．場　所　　ステーションコンファレンス東京　サピアタワー４階

Ⅲ．出席者　　徳久学長、赤田、有馬、犬養、加賀見、香藤、河田、黒木、銭谷、舩橋、武藤各委員
中谷、渡邉、松元、安村、猿渡、金原各委員

ｵﾌﾞｻﾞｰﾊﾞｰ　桑古、宮坂各監事

Ⅳ．前回経営協議会議事録について
原案のとおり承認された。

Ⅴ．審議事項（○：学外委員、◎：学内委員）

１．年俸制の導入に伴う国立大学法人千葉大学就業規則等の一部改正（案）等について

安村理事から、年俸制の導入に伴う国立大学法人千葉大学就業規則等の一部改正（案）等について、資料に基づき説明および学長からの追加説明があり、以下の質疑応答を経て、審議の結果承認された。

○　成果主義という言葉が使われているが、一般企業では形式的もしくは短期的な評価が横行したというマイナスイメージがある。「適切な業務評価」のような表現にすべき。

◎　多様性がある大学教員が評価のために研究活動をするのは違和感があるが、年功序列的な配分からは脱したい。

○　業績評価による給与の増減には賛成だが、成果主義という言葉が問題である。

◎　検討段階では使っていたが、規程には成果という言葉は使っていない。

２．平成 26 年度学内第一次補正予算（案）について

猿渡理事から、平成 26 年度学内第一次補正予算（案）について、資料に基づき説明があり、以下の質疑応答を経て、審議の結果承認された。

○　学長のリーダーシップの発揮に使うお金とはどのような使い方を考えているのか。

◎　国際共同研究拠点の充実、アカデミックリンク機能強化、IR 機能の充実、広報の充実に充てる計画である。

○　電気代も上がるなど、部局の予算も厳しい状況と聞いているが。

◎　運営費交付金だけで生活している部局は切実なので、一部を充てることも考えている。

○　図書の代金はどうか。

◎　新興国からの論文投稿増、為替レートの変動でかなり値上がりしている。利用時には経費がかからない形での論文パブリッシング等で活路を見出したい。

◎　電子ジャーナルの利用が制限されると研究力に差が出てしまうので、ここの経費は十分に確保したい。

３．教育学部・教育学研究科の改組について

中谷理事から、教育学部・教育学研究科の改組について資料に基づき説明があり、以下の質疑応答を経て、審議の結果承認された。

○　教育学部から千葉県の教員になっているのが 16 パーセントということは、東京都などに教員を供給しているということか。

◎　千葉県下では、私学が教職目的の教育を行っているため、千葉大出身者は教員採用試験で採用されなくなっていて、教員になれる人が少ないということ。採用されるためにも教職の教育をきちんとやらないといけない。

○　千葉県の教育委員会との関係は。

◎　最近は思うような交流ができていないので、教職大学院を作るにあたってつながりを強化しようとしている。

○　岐阜大学は県と連携して成功している。

◎　千葉県は仕組みが複雑なので連携は難しいが、いずれにしても優秀な教員を育てなければいけない。

○　子供の将来のために、海外進出している教育機関でグローバルな教育を受けさせる親が出てきた。グローバルユニバーシティに向かう千葉大学なら時代のニーズに合った先生を出せる。

◎　教育学部では、大学の世界展開力強化事業への申請が採択され、学生が海外に行き、外国の学生に日本のことを教えながら、海外についても学ぶツィンクル授業を行っている。また、文部科学省の大学教育再生加速プログラム（AP）に、スーパーサイエンスハイスクールのような高大連携の人事育成の提案を行い、採択され、積極的に行っているところである。

４．国立大学法人千葉大学の組織に関する規則等の一部改正（案）について

中谷理事から、国立大学法人千葉大学の組織に関する規則等の一部改正（案）について資料に基づき説明があり、審議の結果承認された。

Ⅵ．報告事項（○：学外委員、◎：学内委員）

１．平成 27 年度概算要求について

猿渡理事から、平成 27 年度概算要求について、資料に基づき報告があり、学長から追加説明があった。

○　世界トップレベルの教育研究環境の構築で 160 億というのがあるが、これは具体的なイメージがあるのか。

◎　文部科学省から具体的な情報はない。機能強化や研究力の向上に役に立つものが採択されると思われる。

○　研究者との交流と書かれているが。

◎　まだイメージできていない。

○　重要視されるのは、トップレベルの研究、国際化、融合研究の推進、大学改革へのシステムリフォームと今までのシステムを変えていくこと。文部科学省というより、千葉大学がどういうシステムを作るのかが重視される。

◎　文部科学省は、トップレベルと地域密着型の棲み分けをやろうとしている。それを的確に判断しなければならない。

２．平成 26 年司法試験の結果について

金原専門法務研究科長から、平成 26 年司法試験の結果について、資料に基づき報

告があった。

◎　法科大学院は、制度的に大変な時期ではあるが、千葉大学は、対受験者数ランキングで、昨年の９位から８位へランクを上げており、中でも、全体の合格者数が２８２名絞られている中で、本学の合格者が２名増加したという点は、先生方の努力の結果であり、かなり評価できる内容と考えている。

文系の学部に学生が集まらなくなってきている現状を考えると、大学としてテコ入れが必要な状況であるが、成功している法科大学院が学部を引っ張り上げることができるチャンスと捉えることができる。

３．千葉大学の教育研究活動等の取り組みについて

①「スーパーグローバル大学創成支援」事業等について

渡邉理事から、千葉大学の教育研究活動等の取り組みについて、資料に基づき説明があった。

○　スキップワイズプログラムの成熟に敬意を表する。この国際日本学を履修した日本人は、対外的に日本の歴史をどのように発信するのか、何を教えるのか。

◎　歴史の中でも学術研究の現場を大学にいる歴史の専門家が日本語で教えるものと現代日本の宗教と社会を外国人の日本研究者が教えるものの２つの方面から歴史と文化を勉強してもらう。

○　この取り組みには賛成だが、関連あるものをみんな貼り付けたような、非常に総花的な感じがする。もっと集約する、つまり平板なものの羅列ではなく、縄で縛るような形のものを作り上げてほしい。

◎　2016 年に新たな教養学部を作り、国際日本学というコースで新たな国際人を育てたい。今は 270 科目近くあるが精査して研ぎ澄ませていく。

②「大学教育再生加速プログラム」について

渡邉理事から、資料に基づき説明があった。

③「トビタテ！留学ＪＡＰＡＮ」について

渡邉理事から、資料に基づき説明があった。

④ソーラー・デカスロン・ヨーロッパ２０１４について

渡邉理事から、資料に基づき説明の後、学長から、視察の報告があった。

○　ソーラー・デカスロンは今後どうすれば良いか。ノウハウは蓄積されているが、大学として管理する部署を統一し、責任をもってやるような体制にすべきである。

○　世界大会で一位になることによる千葉大学のメリットは何か。

◎　対外的に建築や環境の分野で先進的な取組みをしている部分は伝わると思う。

○　10 項目の審査があるが、特に建築のレベルが上がるはず。

◎　大学としても資金援助をしてもらうために、活動をしている。

○　何ヶ国出ているのか。

◎　世界 16 ヶ国。

◎　千葉大学環境 ISO のように、学生組織としてやれば素晴らしいのだが、海外派遣となると莫大な経費になってしまうため、大学としてどうするのかが今後の検討課題である。

⑤学長と学部長等との夏季特別集中討議について

中谷理事から、資料に基づき報告があった。

４．その他

①先進科学プログラム９月入学（秋飛び入学）について

渡邉理事から、先進科学プログラム、９月入学、秋飛び入学について、報告があった。